平成25年３月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年８月７日

上 場 会 社 名　　株式会社ＡＯＫＩホールディングス　　上場取引所　東・大
コ ー ド 番 号　　8214　　URL http://www.aoki-hd.co.jp/
代　　表　　者　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）青木 彰宏
問合せ先責任者　（役職名）取締役副社長　　（氏名）田村 春生　　(TEL) 045-941-1388

四半期報告書提出予定日　　平成24年８月９日　　配当支払開始予定日　　－
四半期決算補足説明資料作成の有無　　：無
四半期決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．平成25年３月期第１四半期の連結業績（平成24年４月１日～平成24年６月30日）

（１）連結経営成績(累計)

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年３月期第１四半期	38,459	8.4	3,163	15.3	3,446	16.6	2,022	12.6
24年３月期第１四半期	35,481	7.1	2,742	28.9	2,956	22.6	1,795	321.6

(注) 包括利益 25年３月期第１四半期　1,814百万円(　5.3%)　24年３月期第１四半期　1,723百万円(429.8%)

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年３月期第１四半期	48.53	48.50
24年３月期第１四半期	42.09	－

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年３月期第１四半期	174,400	104,975	60.0
24年３月期	176,779	103,994	58.6

(参考)　自己資本　　25年３月期第１四半期　104,573百万円　　24年３月期　103,589百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年３月期	－	15.00	－	20.00	35.00
25年３月期	－				
25年３月期(予想)		20.00	－	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：無

３．平成25年３月期の連結業績予想（平成24年４月１日～平成25年３月31日）

（%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第２四半期(累計)	66,650	7.6	2,450	6.6	2,850	1.1	1,600	4.1	38.40
通期	154,900	5.7	14,600	6.1	15,350	5.2	7,700	8.6	184.78

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動　　：無

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：有

②　①以外の会計方針の変更　　：無

③　会計上の見積りの変更　　：有

④　修正再表示　　：無

（注）第１四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料３ページ「２.サマリー情報（注記事項）に関する事項」をご覧ください。

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年３月期１Ｑ	46,624,752株	24年３月期	46,624,752株
②　期末自己株式数	25年３月期１Ｑ	4,953,056株	24年３月期	4,954,568株
③　期中平均株式数（四半期累計）	25年３月期１Ｑ	41,670,933株	24年３月期１Ｑ	42,671,112株

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料３ページ「（３）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

頁

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 3
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 3
会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
３．四半期連結財務諸表 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書 …… 6
四半期連結包括利益計算書 …… 7
（３）継続企業の前提に関する注記 …… 8
（４）セグメント情報等 …… 8
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 9
（６）重要な後発事象 …… 9

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第１四半期連結累計期間における我が国経済は、東日本大震災からの復興需要を背景に緩やかな回復傾向で推移したものの、欧州の債務問題や海外経済の減速懸念などから先行き不透明な状況が継続しております。また、ファッション事業においては、節電対応やクールビズの浸透などに伴いお客様の消費動向にも変化が出てきております。

このような環境のなかで、当社グループは各事業において下記のような諸施策を実施した結果、売上高は384億59百万円（前年同四半期比8.4％増）、営業利益は31億63百万円（前年同四半期比15.3％増）、経常利益は34億46百万円（前年同四半期比16.6％増）、四半期純利益は20億22百万円（前年同四半期比12.6％増）と増収増益になりました。

セグメントごとの業績は、以下のとおりです。

（ファッション事業）

ＡＯＫＩでは、需要が高まるクールビズに対応して、太陽光を反射して衣服内温度の上昇を抑える「熱ブロックシリーズ」や年々進化を遂げている「プレミアムウォッシュシリーズ」等の機能性商品を拡充いたしました。さらに、すっきりとしたシルエットと動きやすさを追求した信州大学との産学協同開発商品のスラックス群である「ＢＩＺ－ＴＥＣＨパンツ」を、東山紀之さんをキャラクターとしてはじめてのスラックスのＣＭで訴求いたしました。また、レディス商品の拡充やビジカジスタイルの提案として「ＣＡＦＥ ＳＯＨＯ」の強化を図りました。店舗面におきましては、10店舗を新規出店する一方、４店舗の移転を含め５店舗を閉鎖した結果、当第１四半期末の店舗数は445店舗（前期末440店舗）となりました。

ＯＲＩＨＩＣＡ（オリヒカ）は、今期の100店舗体制に備えた環境整備や教育体制の強化を推進するとともに、シックで洗練された雰囲気の新タイプ店舗、名古屋パルコ店を含め６店舗を新規出店する一方、１店舗を閉鎖した結果、当第１四半期末の店舗数は96店舗（前期末91店舗）となりました。

これらの結果、新規出店効果及び４月はスーツ・フォーマル、５月以降はクールビズスタイルのジャケットやスラックス、また、レディスが好調に推移したこと等により、売上高は251億４百万円（前年同四半期比9.1％増）、営業利益は21億65百万円（前年同四半期比7.4％増）と増収増益になりました。

（アニヴェルセル・ブライダル事業）

ゲストハウスウエディングスタイルの挙式披露宴施設を展開しているアニヴェルセル株式会社は、平成23年４月に開業した「アニヴェルセル 豊洲」が引き続き好調に推移するとともに、料飲の販売強化と優秀スタッフのノウハウの共有により平均組単価が上昇いたしました。また、コスト削減も継続して取組んでおります。

これらの結果、平均組単価の上昇とコスト削減効果により売上総利益率が改善し、売上高は61億27百万円（前年同四半期比2.5％増）、営業利益は９億８百万円（前年同四半期比102.4％増）と増収、大幅増益になりました。

（カラオケルーム運営事業）

株式会社ヴァリックのカラオケルーム運営事業は、11店舗のリニューアルを実施するとともに、グランドメニューや期間限定メニュー等フードメニューを強化し、既存店の活性化に注力いたしました。また、アニメキャラクターやテレビ局、音楽関連企業とのコラボレーションキャンペーンの実施により認知度向上と来店促進を図りました。店舗面では駅前中心に４店舗を新規出店する一方、２店舗を閉鎖した結果、当第１四半期末の店舗数は134店舗（前期末132店舗）となりました。

これらの結果、新規出店効果と既存店が引き続き堅調に推移し、売上高は33億90百万円（前年同四半期比8.7％増）、営業利益はリニューアル費用等が増加し１億円（前年同四半期比32.9％減）となりました。

（複合カフェ運営事業）

株式会社ヴァリックの複合カフェ運営事業は、11店舗のリニューアルを実施しアミューズメントコンテンツの増設や店内設備・店舗環境を整備するとともに、フードメニューの強化及び様々なタイアップ企画を実施いたしました。店舗面では、９店舗を新規出店する一方、１店舗を閉鎖した結果、当第１四半期末の店舗数は180店舗（前期末172店舗）となりました。

これらの結果、新規出店効果と既存店が引き続き堅調に推移し、売上高は38億48百万円（前年同四半期比14.0％増）、営業利益は新規出店の増加に伴う費用等が増加し84百万円（前年同四半期比64.1％減）となりました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当第１四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ23億79百万円減少し、1,744億円となりました。

流動資産は、新規出店等によるたな卸資産が８億91百万円増加した一方、設備投資や法人税等の支払い等により現金及び預金が40億59百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ36億９百万円減少いたしました。固定資産は、新規出店等による有形固定資産が９億円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ12億29百万円増加いたしました。

（負債）

流動負債は、短期借入金が20億円増加した一方、法人税等の支払いにより未払法人税等が30億44百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ９億96百万円減少いたしました。固定負債は、長期借入金が約定返済等により25億11百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ23億63百万円減少いたしました。

（純資産）

純資産の部は、四半期純利益等による利益剰余金が11億88百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ９億80百万円増加しております。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、各事業とも予想をやや上回る状況で推移しておりますが、第２四半期連結会計期間以降の先行きが不透明であること等により、平成24年５月11日に公表した業績予想を修正しておりません。

２．サマリー情報(注記事項)に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第１四半期連結会計期間より、平成24年４月１日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第１四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ７百万円増加しております。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成24年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成24年６月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,108	19,049
売掛金	6,980	5,436
たな卸資産	16,058	16,949
その他	6,788	7,889
貸倒引当金	△11	△10
流動資産合計	52,924	49,315
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	41,775	42,260
土地	31,477	31,507
その他（純額）	9,803	10,186
有形固定資産合計	83,055	83,955
無形固定資産	4,897	5,099
投資その他の資産		
差入保証金	8,857	8,773
敷金	17,146	17,348
その他	9,942	9,952
貸倒引当金	△44	△44
投資その他の資産合計	35,902	36,029
固定資産合計	123,854	125,084
資産合計	176,779	174,400
負債の部		
流動負債		
買掛金	15,053	15,122
短期借入金	―	2,000
1年内返済予定の長期借入金	6,518	6,211
未払法人税等	3,760	716
賞与引当金	1,786	720
役員賞与引当金	177	33
その他	10,128	11,625
流動負債合計	37,425	36,428
固定負債		
長期借入金	24,057	21,545
退職給付引当金	722	757
役員退職慰労引当金	1,511	1,536
ポイント引当金	717	753
資産除去債務	3,344	3,435
負ののれん	1,135	1,028
その他	3,871	3,938
固定負債合計	35,359	32,995
負債合計	72,784	69,424

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成24年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （平成24年６月30日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,282	23,282
資本剰余金	22,586	22,587
利益剰余金	63,252	64,440
自己株式	△5,532	△5,530
株主資本合計	103,588	104,780
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1	△207
その他の包括利益累計額合計	1	△207
新株予約権	405	402
純資産合計	103,994	104,975
負債純資産合計	176,779	174,400

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第１四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自 平成24年４月１日 至 平成24年６月30日）
売上高	35,481	38,459
売上原価	19,146	20,277
売上総利益	16,334	18,182
販売費及び一般管理費	13,592	15,018
営業利益	2,742	3,163
営業外収益		
受取利息	16	19
受取配当金	47	19
不動産賃貸料	221	199
負ののれん償却額	243	243
その他	47	120
営業外収益合計	576	602
営業外費用		
支払利息	83	76
不動産賃貸費用	211	185
その他	68	57
営業外費用合計	362	319
経常利益	2,956	3,446
特別利益		
新株予約権戻入益	241	－
特別利益合計	241	－
特別損失		
差入保証金・敷金解約損	10	－
固定資産除却損	65	－
減損損失	78	29
その他	7	1
特別損失合計	162	31
税金等調整前四半期純利益	3,035	3,414
法人税、住民税及び事業税	645	723
法人税等調整額	593	669
法人税等合計	1,239	1,392
少数株主損益調整前四半期純利益	1,795	2,022
四半期純利益	1,795	2,022

四半期連結包括利益計算書
第１四半期連結累計期間

（単位：百万円）

	前第１四半期連結累計期間 （自 平成23年４月１日 至 平成23年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自 平成24年４月１日 至 平成24年６月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	1,795	2,022
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△72	△208
その他の包括利益合計	△72	△208
四半期包括利益	1,723	1,814
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,723	1,814
少数株主に係る四半期包括利益	－	－

（３）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（４）セグメント情報等

前第１四半期連結累計期間(自　平成23年４月１日　至　平成23年６月30日)

① 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
	ファッション事業	アニヴェルセル・ブライダル事業	カラオケルーム運営事業	複合カフェ運営事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	23,017	5,971	3,117	3,374	35,481	―	35,481
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	3	1	―	5	△5	―
計	23,018	5,974	3,118	3,374	35,486	△5	35,481
セグメント利益	2,015	448	149	233	2,847	△105	2,742

（注）１．セグメント利益の調整額△105百万円には、セグメント間取引消去796百万円、のれん償却額△133百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△768百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

２．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

② 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「ファッション事業」セグメントにおいて、主に店舗の移転が決定し回収が見込めなくなった固定資産について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第１四半期連結累計期間においては54百万円です。

当第１四半期連結累計期間(自　平成24年４月１日　至　平成24年６月30日)

① 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
	ファッション事業	アニヴェルセル・ブライダル事業	カラオケルーム運営事業	複合カフェ運営事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	25,104	6,118	3,387	3,848	38,459	―	38,459
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	8	2	―	11	△11	―
計	25,104	6,127	3,390	3,848	38,471	△11	38,459
セグメント利益	2,165	908	100	84	3,258	△95	3,163

（注）１．セグメント利益の調整額△95百万円には、セグメント間取引消去829百万円、のれん償却額△133百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△791百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

２．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

② 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「ファッション事業」セグメントにおいて、主に店舗の移転が決定し回収が見込めなくなった固定資産について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第１四半期連結累計期間においては26百万円です。

③ 報告セグメントの変更等に関する事項

「２．サマリー情報(注記事項)に関する事項」の会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、当第１四半期連結会計期間より、平成24年４月１日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の「ファッション事業」、「アニヴェルセル・ブライダル事業」、「カラオケルーム運営事業」及び「複合カフェ運営事業」のセグメント利益はそれぞれ３百万円、０百万円、１百万円及び２百万円増加しております。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

（６）重要な後発事象

該当事項はありません。